

第2日目 2025年9月7日(日)  
午前の部 10:00~12:40

開催校企画テーマセッション

ジェンダー・セクシュアリティ・近代家族のいまと未来  
——政治学者・人類学者・社会学者による批判的協働

司会・オーガナイザー 末盛 慶(日本福祉大学)  
討論者 須長史生(昭和医科大学)

【企画趣旨】

本セッションは以下に述べる2つの問題意識を背景に組まれたものである。

1つめは日本のジェンダー状況は国際的にみてかなり遅れをとっていることである。ジェンダーギャップ指数は先進国の中で最下位であり、東アジアの中でも低位にある。LGBTQ+やSOGIに関する理解は広がりつつあるが、セクシュアリティに関して日本は保守的な側面をもつ国でもある。

2つめは世界情勢である。国際的な状況全体をみていけばジェンダーやセクシュアリティに関して平等化や理解が浸透する流れが見られる。その一方、米国では反DEIを主張する政権が成立しEUでは中道右派や極右政党が議席を伸ばしている。つまりジェンダーやセクシュアリティに対して逆風とも言える政治的環境が近年欧米諸国において生まれてきている。

このように困難な状況が複合的に重なる中、わたしたちは日本のジェンダーやセクシュアリティについてどのように考えていけばいいのかを本セッションでは議論する。当日の構成としては、まず日本のジェンダーとセクシュアリティの現状を代表性の高いデータ等にもとづきながら把握する。次にジェンダーおよびセクシュアリティに関する諸前提を暗黙に含む近代家族ではひとびとを包摂しえない現実について共有する。以上の検討を踏まえて、今後わたしたちは家族をどのように考えていけばいいのかについて理論的な試論を展開する。

本セッションは社会学の垣根を超え、政治学者、人類学者にも参加していただきながら日本のジェンダーやセクシュアリティについて自由に議論する。批判的な視点を持ちながら未来への協働につながる機会の1つになることを目的としている。